

最適な手法が見つかる！

ウェビナーの タイプ別診断

100社以上のウェビナーをサポート
250回以上のウェビナーを自社開催

してきた品川動画スタジオが

限られた時間と人手を有効活用するために

4種類のウェビナーの型を解説

クスノセ・アンド・カンパニー株式会社
品川動画スタジオ



時間と人手を最大限活かして余計な心配から解放される

2020年から徐々に増えてきた企業のウェビナー活用ですが、まだ歴史が浅く、当然専任の担当者を配置している企業の方が少ないのが現実です。

そのため、ウェビナー担当者さんの多くが、他の業務と兼業しながらウェビナーも実施するといった状況にあり、時間も人手もいっぱいいっぱいの状態です。

そんな中で、講師手配や資料作成などウェビナーの中身を作るだけでなく、配信の準備や参加者集めなど、やることが山積みになるという課題があります。

この課題を解決するのがウェビナーの分類です。

ウェビナーの分類をすることで、**何をする必要があるので、逆に何をしなくて良いのかがわかるので、効率的にウェビナーの準備を進めることができ、限られた時間と社内リソースを有効活用して、余計な心配をしなくてもよくなります。**

このレポートの中では、品川動画スタジオが100社以上の企業のウェビナーサポート、250回以上の自社開催のウェビナーを通して見えてきた経験を元に、ウェビナーを4つのタイプに分類して解説します。

あなたが実施しようとしているウェビナーがどのタイプに当てはまるのか、どんなメリットがあって、どうやって進めれば良いのか、注意するポイントは何か、ぜひ確認していただき、ウェビナーの準備を効率的に進めてください。



【タイプ1】 講演型ウェビナー



概要

スタジオで講師が話している様子を撮影してライブ配信するウェビナー。視聴者はオンラインで視聴する。質問などはチャットでやり取りする。

向いている用途

セミナー・株主総会・発表会・決算説明会・会社説明会・商品勉強会・代理店会議・学会・シンポジウム・研究会など

向いているプラットフォーム

YouTube、Vimeo

特徴

- ✓ 1対多で一方通行で話す
- ✓ リアルの講演をそのままオンライン化したようなイメージ
- ✓ 参加者とのコミュニケーションはチャットなどテキストベース
- ✓ オフィシャル感が強め
- ✓ 当日の運営はやることは少ない

【タイプ1】 講演型ウェビナー

メリット

高画質・高音質で画面構成の自由度が高いので見栄えする

配信するプラットフォーム（YouTube、Vimeo）が映像・音を高品質で届けることができるので、資料をキレイに映し出すことができたり、聞き取りやすい音声でウェビナーを実施できます。また、スイッチャーなどを使えば、引の画やアップの画、画角の切り替え、資料と人を同時に映すなど、画面構成を自由に設定できるので、全体的に見栄えのするウェビナーになります。

動画コンテンツとして二次利用しやすい

見栄えの良いウェビナーを実施でき、途中で途切れることなく伝えたいことを伝え切ることができるので、当日のライブ配信の映像をそのまま動画化してアーカイブすることで、コンテンツの二次利用がしやすいというメリットもあります。

参加しやすいから人がたくさん集まる

YouTubeやVimeoを使えば、視聴者側で事前にアカウント登録等の準備が必要ないので、参加しやすくなります。また、匿名性が保たれるので質問をしやすくなる利点もあるため、不特定多数を集めたいウェビナーには最適にな手法です。

注意点

内容をしっかり作り込むことが必要

基本的に一人でカメラに向かって話すことになるので、事前にしっかりと内容を作り込んで、話すことや話す順番を決めておくことが必要です。相手のリアクションを見て内容を調整する、といったことができないので、通常のセミナーより事前の作り込みにしっかりと時間をかけることが重要になってきます。

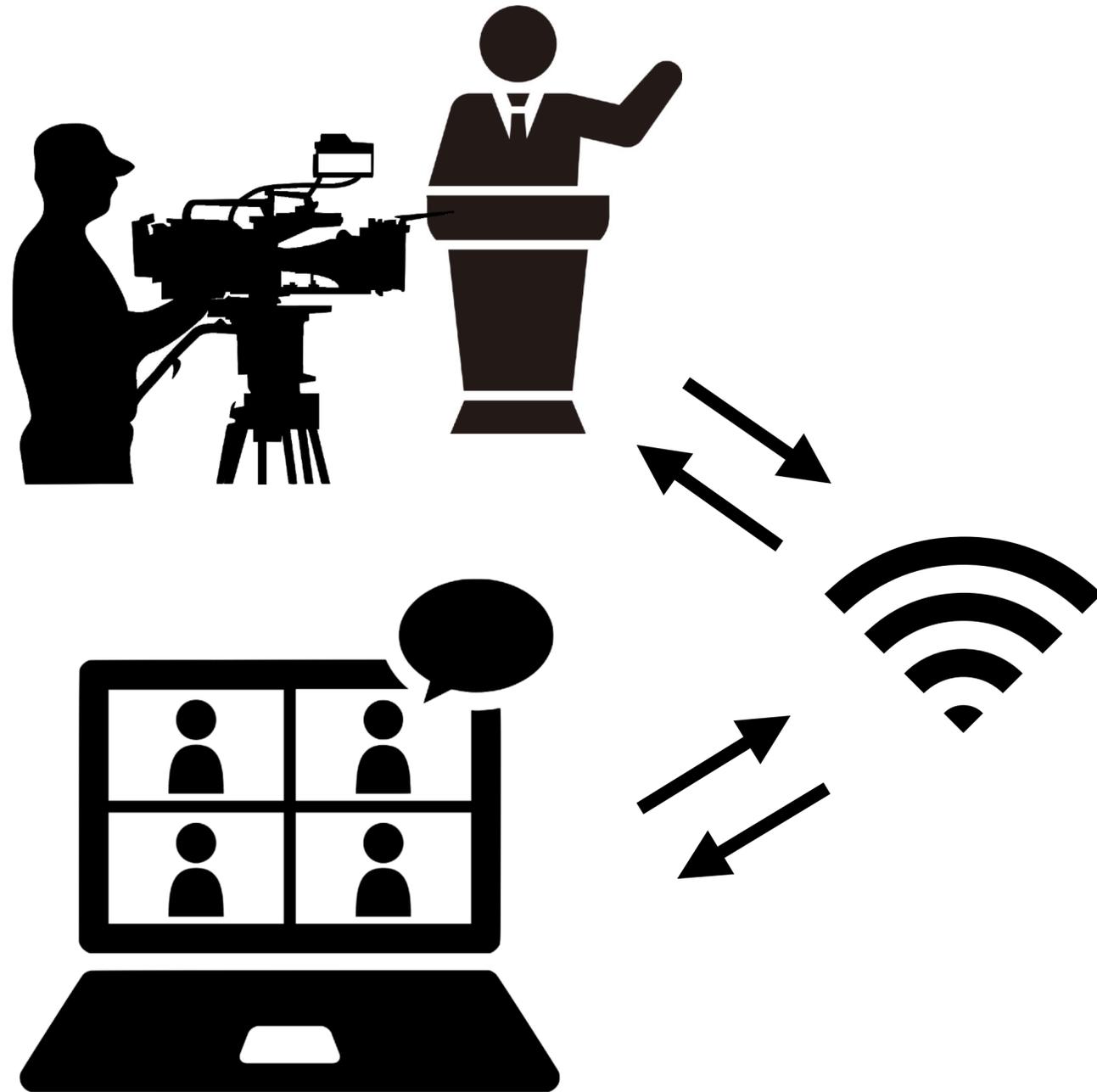
段取りをしっかりとしておく

当日の運営負担を減らすには事前の準備が重要です。進行表をしっかりと作る、資料を用意するといった内容面での準備や、スタジオを使う場合はスタジオスタッフとの連携など配信面での準備をして、事前に一度はリハーサルをしておくことで、トラブルリスクを最小限に抑えられます。

カメラに向かって話すことに慣れる

人前で話すことに離れていても、カメラに向かって話すことに慣れていない講師は多く、本調子で話せないことがあります。練習して慣れてもらうのも一つですが、カメラの奥に相槌を打つ聞き手を配置して、その人に向けて話すと、カメラ慣れしていない方でも話しやすくなります。

【タイプ2】 双方向型ウェビナー



概要

出演者と参加者がオンライン上で互いにコミュニケーションを取り合うウェビナー

向いている用途

勉強会、学会、討論会、ワークショップ、研修、インターンなど（参加者とのやり取りを重視したいもの）

向いているプラットフォーム

WEB会議システム（ZOOM、Microsoft Teams、Google Meet、Cisco Webexなど）

特徴

- ✓ タイムラグが小さい
- ✓ 参加者と積極的にやり取りできる
- ✓ プライベート感が強め
- ✓ 当日のオペレーションが多め

【タイプ2】 双方向型ウェビナー

メリット

対面と同じくらい盛り上がる

双方型の何よりのメリットが、出演者側と参加者側との間で積極的にコミュニケーションを取れるということでしょう。そのため、対面で実施していたセミナーと同じように、場の一体感や盛り上がりをオンラインでも再現することができます。

機能を活用して議論が活性化する

Zoomなどのウェブ会議システムには、投票機能やアンケート機能があります。全体の意見を聞いてみたいときなどは、それらの機能をうまく活用することで、発言以外でも双方向のやり取りを実現することができます。

顔が見えるから話しやすい

場合によっては講師の方が無人のカメラに向かって話すことに慣れておらず、本調子で話ができないこともあるでしょう。その点、WEB会議システムを使えば、参加者に顔を出してもらうこともできるため、相手の反応を見ながら講演を作り上げていく講師の方は話しやすくなります。

注意点

参加者のハードルが高い

YouTubeなどに比べてZoomはここ1年ほどでようやくメジャーになってきたツールで、他のウェブ会議システムも普段使いしている人はまだ多くはありません。そのため、参加者側でのアカウント設定などの必要が発生します。また、顔を出すということに抵抗を感じる方もいるので、参加のハードルが高くなる傾向があります。

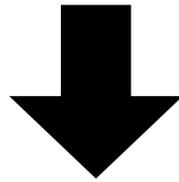
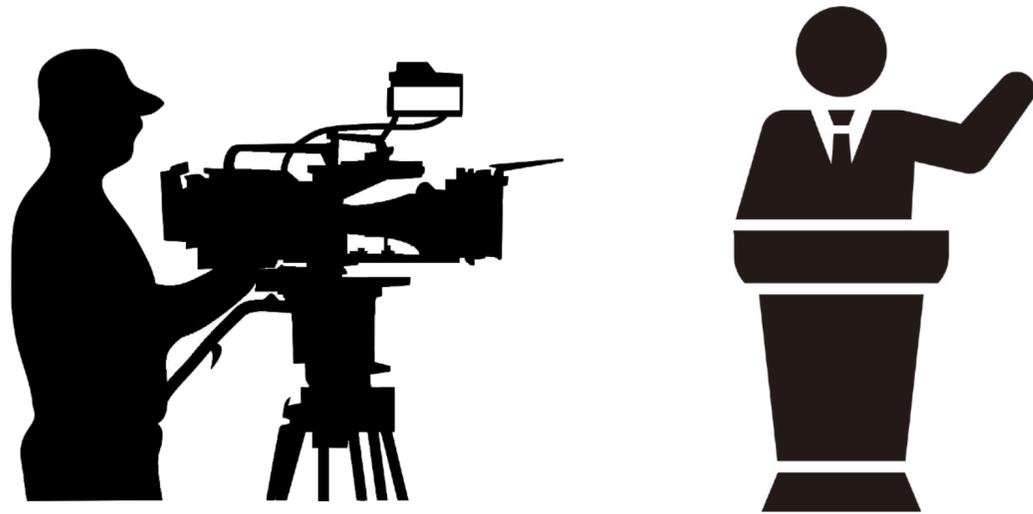
動画共有に不向き

配信するプラットフォームの特性上、双方向のやり取りしやすい分、画質と音質が犠牲になりがちです。そのため、クオリティの高い動画を事前に撮影しても、共有してみると音ズレが生じる、画面がカクカクになる、といった状態になるので、動画共有にはあまり向いていません。

運営の動きが大変

一方通行のウェビナーに比べて、参加者対応が多くなるため、現場の負担が大きくなります。視聴者側も設定が必要となるため、講演型ウェビナーと比べて「見れない」「聞こえない」といった参加者側のトラブルが多くなり、問い合わせ対応も増え、質問・やり取りが長引くと時間オーバーになってしまうので、現場の対応に追われることとなります。そのため、出演者以外に現場対応するスタッフを配置しておくことが必須になります。

【タイプ3】録画型ウェビナー



概要

事前に収録しておいた動画を期間を決めて配信するウェビナー

向いている用途

オンラインセミナー・講演会・教育/学習用コンテンツなど（リアルタイムのやり取りが重要視されないもの）

向いているプラットフォーム

YouTube、Vimeo、社内サーバー

特徴

- ✓ 1対多で一方通行で話す
- ✓ 参加者とのリアルタイムのやり取りはできない
- ✓ オフィシャル感が強め
- ✓ 当日の運営はやることは少ない

【タイプ3】録画型ウェビナー

メリット

質の高いコンテンツを配信・二次利用できる

事前の収録で動画スタジオ等を利用する場合、専用の機材を使って撮影することができ、撮影した動画を編集することもできるので、質の高い動画コンテンツをウェビナーとして配信することができます。また、事前に作成する動画なのでもちろんそのまま二次利用として動画配信することもできます。

ミスをしてもしかり直せる安心感がある

事前収録のメリットとして、撮り直しができることがあります。言い間違いの修正や、実際話をしてみての言い回しの変更など、調整が効くので、最終的に納得のいく形で配信することができます。

当日の負担が少ない

動画の収録や公開の設定は全て事前に完了させる作業なので、当日は、プラットフォーム側でのトラブルがなければ、ほぼやることはありません。そのため、当日にスタッフの人数を集められなくても問題なくウェビナーを実施することができます。

注意点

撮り直しが多いとクオリティが下がる

録画型のメリットとして撮り直しができる、という点がありますが、あまりにも撮り直しが多く、最終的に多数のカットを編集でつなぐ形にすると、つなぎ目の前後で話し手の熱量が異なったりと不自然な見え方をしてしまうことがあります。そのため、可能な限り1回で撮りきることができるように事前にリハーサルをしておくことで、最終的に出来上がるコンテンツの質が上がります。

YouTubeの設定も要確認

当日の決まった時間に配信できるようにすることもそうですが、配信し終わった後に二次利用する場合は、動画を見てもらうための工夫も必要になります。例えば、YouTubeだと、サムネイルやタイトルの設定などをしっかりとすることで、二次利用した時の効果が変わってきます。

事前準備に時間がかかる

当日の負担がない分、事前の準備には時間がかかります。ライブではない分、中身をしっかりと作り込むことで参加者に価値を感じてもらうことが求められます。資料を作り込んで、実際に話す練習・リハーサルをして、収録した動画は見やすいように編集し、配信の設定も事前に完了させておく必要があります。

【タイプ4】 講演・録画複合型ウェビナー



概要

スタジオで出演者がライブ配信をしながら、途中で事前に収録しておいた動画を流すウェビナー

向いている用途

オンラインセミナー・学会・シンポジウム・研究会・入社式・会社説明会など（出演者が多数になり、全員が当日一同に集まるのが困難な場合）

向いているプラットフォーム

YouTube、Vimeo

特徴

- ✓ 1対多で一方通行で話す
- ✓ 大きなイベントであることを演出できる
- ✓ 参加者とのコミュニケーションはチャットなどテキストベース
- ✓ オフィシャル感が強め
- ✓ 当日の運営・講師は負担が少ない

【タイプ4】 講演・録画複合型ウェビナー

メリット

出演者の都合を合わせやすくライブ感もある

ウェビナーの出演者が多くなればなるほど、全員の予定を合わせるのが困難になります。複合型のウェビナーの場合、ライブ感を演出して、リアルタイムで質疑応答ができると同時に、当日都合が合わない講師にも動画で出演してもらうことができます。リアルタイムで遠隔の講師とつなぐライブ配信よりもトラブルリスクが少ないので、出演者が多数になったとしてもスムーズにウェビナーを開催することができます。

高画質・高音質・画面構成の自由度が高く、見栄えする

配信するプラットフォーム（YouTube、Vimeo）が動画を見せることに優れているので、資料をキレイに映し出すことができたり、聞き取りやすい音声でウェビナーを実施できます。また、引の画やアップの画、画角の切り替え、資料と人を同時に映すなど、画面構成を自由に設定できるので、全体的に見栄えのするウェビナーになります。

動画コンテンツとして二次利用しやすい

見栄えの良いウェビナーを実施でき、途中で途切れることなく伝えたいことを伝え切ることができるので、当日のライブ配信の映像をそのまま動画化してアーカイブすることで、コンテンツの二次利用がしやすいというメリットもあります。

注意点

事前の設定とリハーサルは必須

ライブ配信の途中で動画を流す、という通常よりもやや複雑なオペレーションが発生します。動画を流す前後で手間取ってしまう、動画が再生されないというトラブルにより変な間が空いてしまうと参加者のガッカリ感に繋がります。そのため、事前に有識者による設定とリハーサルが重要になってきます。

事前収録の時間がかかる

当日出演できない講師の動画を事前に収録する時間と人手を事前に確保する必要があるため、ライブ配信だけの場合と比べて事前の準備に時間がかかります。そのため、通常の講演型ウェビナーよりも早めに動き出すことが重要です。

配信機材の負荷が大きい

共有する動画の時間が長いと、配信機材に負荷がかかります。そのため、場合によってはPCが固まってしまう…といったトラブルも起こる可能性があります。そうならないように、事前に必ず機材のテストを実施しておいて、動画を共有しても問題なく配信できるかどうかを確認しておくことが大切です。

4タイプのウェビナーまとめ

	講演型	双方向型	録画型	講演・録画複合型
プラットフォーム	YouTube、Vimeo	Zoom、Microsoft Teams、Google Meet、Cisco Webex	YouTube、Vimeo、社内サーバー	YouTube、Vimeo
方向性	一方通行	双方向	一方通行	一方通行
雰囲気	公式感	プライベート感	公式感	公式感
内容の伝えやすさ	◎	△	◎	◎
画質・音質・見せ方の自由度	◎	△	◎	◎
対面感・一体感	○	◎	△	○
参加者とのやり取りのしやすさ	○	◎	△	○
運営現場の負担	小	大	小	中
事前準備の負担	中	小	大	大
当日の出演者負担	大	中	小	小
参加者負担	小	中～大	小	小

最適なウェビナーのタイプを選ぶには？

このレポートを通して、

講演型ウェビナー / 双方向型ウェビナー / 録画型ウェビナー / 講演・録画複合型ウェビナー

の4つのタイプのウェビナーについて解説してきました。それぞれに、向いていること・向いていないこと、当日の負担・事前準備の負担などが異なることを知ってもらえたと思います。

大切なのは、どのタイプが最も優れているか、ということではなく、**ウェビナーで達成したい目的や社内リソースがどれだけあるか、といった状況に応じて最適な手法を選択すること**です。その正しい選択こそが最終的なウェビナーの成功に直結します。

もちろん、このレポートを読んで、自社に最適なウェビナーのタイプを自分で選んで実行することもできますが、「**本当にこのタイプのウェビナーを実施してもいいのか？**」という不安がある方は、一度、品川動画スタジオにご相談ください。

品川動画スタジオでは、「ウェビナーをすることになったけれど、何から始めて良いかわからない...」といったウェビナー担当者様に多数ご相談いただき、初心者目線での説明のわかりやすさに高い評価をいただいています。

ウェビナー開催でお悩みの方は下記連絡先より、お気軽にお問い合わせください。

このレポートをわかりやすく解説した
動画を見たい方はこちら



<https://youtu.be/br4SCznhqu4>

 <https://shinagawa-douga-studio.com>

 050-5539-2004